

崗岩及びデイサイトからなり、花崗閃緑岩は閃緑岩及び花崗岩に貫かれると推定される。花崗閃緑岩は初生黒雲母のK-Ar法年代として 48 ± 1.4 Maを得た。下部白亜系及び上記貫入岩類は中～上部第三系により不整合に覆われる。

中～上部第三系は、新第三系中新統～鮮新統のイグニブライト(流紋岩質溶結凝灰岩・軽石凝灰岩)からなる。

上部第三系-第四系は、玄武岩質の溶岩からなる。

第四系は沖積層及び崖錐堆積物からなる。

本地域には中部、南部の2カ所に変質帯が存在する。いずれも白亜系中に貫入する花崗岩類及びその周辺に分布する。

中部変質帯は、花崗岩類中に発達するセリサイト-電気石化変質と、これを取り巻くように発達する白亜系火砕岩・堆積岩中の珪化帯からなる。同珪化帯には黒雲母を含む接触変成相が認められる。東部の閃緑岩中には黄鉄鉱を伴う石英再脈が認められ、その周辺の花崗閃緑岩や白亜系中の珪化帯には黄鉄鉱の再脈及び鉱染が認められる。また、西部の花崗閃緑岩中には酸化銅鉱を伴う石英-電気石脈が存在し、水平、垂直的にいずれも10m程度づつ採掘されている。この脈の西側に分布する白亜系堆積岩・火砕岩中にも東部と同様の珪化帯が発達する。

南部変質帯は、閃緑岩及び花崗斑岩質岩とその周辺に発達する。花崗斑岩質岩とその周辺にはセリサイト-電気石化変質帯が存在し、さらにその周辺はプロピライト化変質帯となっている。鉱石鉱物は認められない。

岩石地化学異常として、中部変質帯で(Au)-Ag-Pb-Zn-As異常及び南部変質帯でHg異常が検出された。

主として花崗岩類中に発達する中部変質帯は、空中磁気の間接強度帯及びその近傍に位置し、さらに、この変質帯の東側は、短波長低異常の周縁部に重なり、西側は中波長高異常域周縁部に重なる。また、花崗岩類周辺部に発達する南部変質帯は、中波長低異常域周縁部に接する短波長高異常の周縁部と磁気中間強度帯が重なる部分に位置する。

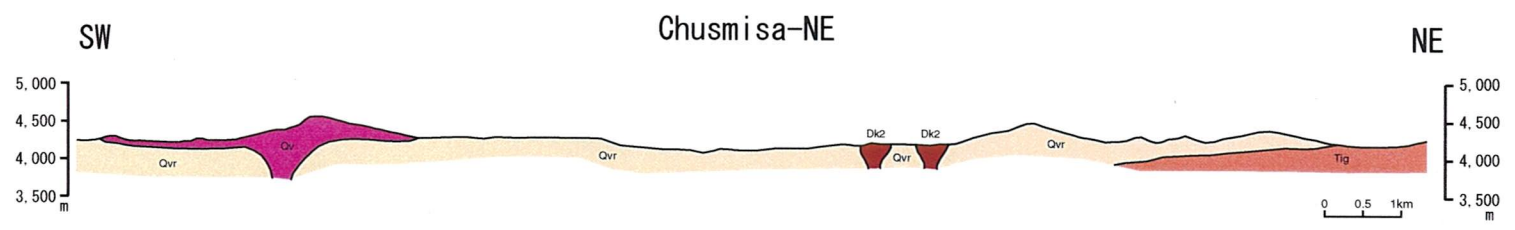
2-11 チュスミサ北東地域

本地域の地質図をFig. 2-2-55に、模式地質柱状図をFig. 2-2-56に、鉱徴位置図をFig. 2-2-57に、変質鉱物分布図をFig. 2-2-58に、岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-59にそれぞれ示した。

本地域の地質は、中～上部第三系及び上部第三系-第四系からなる。

中～上部第三系は、新第三系中新統～鮮新統のイグニブライト(流紋岩質溶結凝灰岩・軽石凝灰岩)からなり、上部第三系-第四系により不整合に覆われる。

上部第三系-第四系は、イグニブライト(流紋岩質溶結凝灰岩・軽石凝灰岩)と、これを不整合に覆う安山岩質～玄武岩質溶岩からなる。前者には、安山岩または流紋岩～デイサイトのプラグが貫入し、後者にはデイサイトプラグが貫入している。



Geologic Time		Columnar Section	Lithology	Intrusives	Mineralization
CENOZOIC	QUATERNARY ~ TERTIARY		Andesitic~ basaltic lava	Andesite (Dk2) ↑ Rhyolite~dacite (Dk2) ↑ Dacite (Dk2) ↑	Epithermal type (pyrite, kaolin, silica) ↑
	TERTIARY PLIOCENE ~ MIOCENE		Welded tuff		

Fig.2-2-56 Schematic Stratigraphic Columns and Profiles of the Area to the Northeast of Chusmisa